

大阪府堺市こひつじこども園「こどもぼうさいデー」に参加

～阪神・淡路大震災の経験談から自分の命・体を瞬時に守るポーズを学ぶ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：東口 嘉仁・三井住友海上火災保険株式会社執行役員 関西地区担当）では、9月13日（土）に大阪府堺市の社会福祉法人 地球の園 こひつじこども園の「こどもぼうさいデー」で近畿支部防災博士（※1）の増田晶子さんと当支部茨木職員が「ぼうさいダック（※2）」と「ワークショップ（※3）」を実施しました。

「こどもぼうさいデー」は、こひつじこども園の主催で、放課後等デイサービスこひつじと大阪総合保育大学の共催、防災教育チャレンジプラン実行委員会の後援によりが初めて開催されました。遊びと体験を通して防災への興味・関心を育み、地域全体の防災力向上を目指すことを目的としていることから、当支部では、「ぼうさいダック」と「新聞紙スリッパ」ワークショップを体験してもらいました。

当日は、茨木職員から30年前の阪神・淡路大震災の経験談を交え、地震、火事、台風、洪水、津波、雷のカードで、災害や危険から命や体を守るポーズを覚えてもらいました。火事の説明では併せて「おはしも（避難の合言葉（※4））」の意味を伝えました。

アンケートでは、「音楽やカードに合わせて子どもが楽しみながら身を守るための具体的な行動を学べるぼうさいダックが良かった。」「新聞紙スリッパを初めて作って嬉しかった。」という声がありました。

こひつじこども園の先生からは「私自身も参加者と一緒に真剣にぼうさいダックを学びました。また、スリッパを作った参加者が楽しそうに卵パックを踏んでいる様子を見て嬉しく思いました。ありがとうございました。」との謝辞と感想がありました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※1 防災博士とは…近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱しており、近畿支部防災博士は地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。

※2 ぼうさいダック…安全・安心の「最初の第一歩（ファースト・ムーヴ）」を、子どもたちが、実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学んでもらうためのカードゲームです。

<https://www.sonpo.or.jp/report/publish/education/0008.html>

※3 阪神淡路大震災の経験から、物が散乱した中を歩くとき身近なもので代用になる新聞紙でスリッパを折り、卵パックの上を歩く体験をしてもらいました。

※4 「おはしも」とは…「お」さない、「は」しらない、「し」やべらない、「も」どらない。



台風のときは、情報を聞く「ウサギ」のポーズ



新聞紙スリッパ作成の様子



新聞紙スリッパで卵パックの上を歩く様子